

第9期 小金井市地域自立支援協議会 部会活動報告

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 部 会 名   | 障害者支援施設検討部会              |
| 開 催 日 時   | 令和8年3月24日(火) 18:00~19:00 |
| 記録担当委員  | 事務局 五十嵐 辰也、猿渡 正隆         |
| <p><b>【協議概要】</b></p> <p>(1) 障害者支援施設（シャロームみなみ風）の視察結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事務局から、資料1及び資料2のとおり説明があった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敷地面積1,100㎡というコンパクトな立地のなか、延床面積2,938㎡を確保して施設入所支援、生活介護、短期入所、生活訓練、就労継続支援B型、計画相談支援と多機能なサービスが入っている。小金井市内で広い土地が確保できない場合を想定すると、構造や運用が大変参考になった。</li> <li>・ もともと公有地であった土地に公募を行ってできた施設である。建設費や土地の賃借料に対して東京都や新宿区による補助が行われている。</li> <li>・ 地域生活支援拠点の役割の1つとして、施設の短期入所のうち1人分の枠を緊急対応用に新宿区が借り上げている。また、障害支援区分が低くても施設でないと生活できない方の入所も受け入れている。</li> <li>・ 地下1階から地上4階までであるため、導線として利用するエレベーターの管理は重要となっている。</li> <li>・ 地域に開かれた施設の取組として、福祉避難所に指定されているほか、地域交流スペースを地域に開放している。また、建物はガラス張りの部分を設けて中が見えるようにしていたり、年1回地域交流イベントを開催し、障がいへの理解促進に取り組んでいる。</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 障害者支援施設検討部会の振り返りについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの検討状況を踏まえて以下の意見があった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域移行の練習の場として、また緊急時の受け入れの場として、入所施設に地域生活支援拠点の機能があることが重要である。</li> <li>・ 入所施設の持続可能性という面で、人材確保や事業継続を行っていくための一定程度の収益が見込んでいくということも必要である。</li> <li>・ 公有地を入所施設に転換するのはかみ合わせが良い。入所施設の定員規模は40人程度が妥当ではないか。機能としては、地域に足りていない集会所が必要と思われる。</li> <li>・ 福祉分野の事業では職員の確保がとても大変である。また、市民が利用できる会議室が必要だと思う。</li> <li>・ 市内での福祉のつながりを考えていくにあたり、カフェや会議室の機能が重要で、加えて立地も重要となる。子育て世代を支援できるようなスペースも求められる。また、既存の物件の活用も視野に入れて検討してもよいのでは。</li> </ul> </li> </ul> |                          |

- 福祉避難所としての取組について、先日事業所で近隣の小学校と合同訓練を実施したが、大変参考になった。日頃から地域とうまくつながっていないと災害時に連携が取れなくなる。
- 親が高齢となり、障がいのある子の支援ができなくなってきて困っているとの声をよく聞くので、今後も引き続き入所施設の検討を継続してほしい。

○ 事務局から、以下の発言があった。

- 入所施設に併設する障害福祉サービス等については、都が掲げる地域生活支援型入所施設の要件の1つとして、また、地域生活支援拠点の役割の1つとして短期入所を整備すること、施設全体の収支を安定させるためにニーズの高い生活介護を整備することが考えられるのではないか。
- 障害福祉サービス等のほか、地域に開かれた施設の実現に向けて必要となる機能（地域交流スペースや福祉避難所等）についても一定のご意見をいただいたため、これを参考に引き続き検討を進めたい。